
空と花

環

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

空と花

【Nコード】

N8855A

【作者名】

環

【あらすじ】

花は空を想い、空は花を見守る。

「花、何してんの？」
「空を見てるよ」
「俺？」
「うん」
「ふゝん…、じゃあ俺も花を見てる」
「好きにきなさい」
「冷たいなあ」
「空はあつたか過ぎ」
「そうかな？」
「空は何になりたいの？」
「ん？俺はなあ…何だろうな、決まってるないや」
「そう」
「花は？」
「僕は…蝶になりたい」
「は？」
「変？」
「いや、別に变じゃないけどさ…意外」
「意外？」
「俺はてつきり花も決まってるないって言うんだと思った」
「あー最初はそれ思ってたよ」
「急に変わったの？」
「空見てたら思った」
「なんで？」
「飛びたくなつた」
「ふゝん」
「空は飛びたくないの？」
「俺は…もう飛んでるし」

「飛んでるの？」

「うん、花の上の方ですつと」

「僕の上？」

「そうだよ、空だもん」

「そっか。空は空だもんね」

「うん」

「じゃあやつぱり僕は、花がいい」

「また急だな」

「空見てたいから」

「そっか…時々俺が連れて行ってやるよ」

「空が？」

「ああ、俺がお前を連れて行ってやる」

「よろしく」

「うん」

「飛ぼう、花」

「え？」

「ほら、立って。いつまでお昼寝してるのさ」

そういつて伸ばした手を、僕はつかんで、飛んだんだ。どこまでも続く、青い青い空が、一面の野原に広がる、綺麗な花達が。空が空へ還るとき、僕は花になる。空が望んでいてくれる限り、僕はずっと、花になる。

蝶になりたかったのは、空が遠すぎるから、ちょっとした嫉妬心からの夢だったのかもしれない。あ、そうそう。空が空になったのは、本当は僕をいつでも見るためだとか。僕はいつでも君を見ているのにね。

花は空が好きです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8855a/>

空と花

2010年12月30日09時50分発行